

<2023年2月15日(水) フォトイメージングセミナー開催>

<セミナー講師プロフィール>

◆13:20-14:10

「異なるものを繋げてみる - 魚が水について学ぶ方法-」



T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO
(東京国際写真祭) ファウンダー
はやみひろ
速水惟広 氏

写真雑誌「PHaT PHOTO(ファットフォト)」編集長を経て、2017年に上野公園にて東京で初となる屋外型国際写真祭「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO」を設立。2020年より東京駅東側エリアに舞台を移し、同フェスティバルのディレクションを手掛ける。これまでに手掛けた主な企画展に「The Everyday -魚が水について学ぶ方法-」(共同キュレーター きりとりめでる、2022)、アレハンドロ・チャスキエルベルグ展「Otsuchi Future Memories」(岩手県大槌町、2016ほか)。最近の活動に世界報道写真財団のJoop Swart Masterclass Selection Committeeメンバー(2020)、Photo Vogue Festival審査員(イタリア、2021)、Critical Mass審査員(米国、2022)など。

◆14:20-15:10

ギャラリー経営 15年目に「まちの写真屋さん」を始める理由



ブルームギャラリー代表
一般社団法人写真整理協会顧問
窪山洋子 氏

福岡生まれ、大阪在住。2009年に写真専門ギャラリー「ブルームギャラリー」を開廊。主に西日本にゆかりのある作家の作品販売やマネージメントを行う他、作品の額装や整理、保存など、プリント後の「飾り方」や「残し方」に特化した相談やコーディネート業を行う。2011年の震災以後は、ギャラリー活動で培ったノウハウを活かし、地域や個人が保有する大切な思い出や記録を最適に残すための写真展企画やサポートを行うなど、より幅広い領域の写真に寄り添う活動を展開している。2022年にデジタル銀塩ミクロボ機を導入、令和時代のニーズに寄り添ったサービスを目指し、現在はリサーチやパイロット事業を展開中。「写真整理×写真プリント」をコンセプトにした「まちの写真屋さん」は2023年春にオープン。

◆15:20-16:10

マスから個のつながりへ。コロナを経た一般ユーザーの動向とストーリーが見える関係性づくり



写真家 北海道カメラ女子の会 代表
渡邊真弓 氏

大学院法学研究科を修了し大学職員として就職後、写真と出会う。暮らしや人生と密接に結びつく写真の魅力をたくさんの人に伝えたいと2014年に独立。「北海道カメラ女子の会」を立ち上げ、コミュニティの形成や地方自治体・企業と写真を活用した魅力発信を行う。3000人を集客するフォトフェスCuiCui、オンラインも活用した写真教室など、「写真と一緒にくらしを楽しむ」「写真と一緒に新しい出逢いや発見を」キーワードに幅広く活動する。京都芸術大学通信教育部美術科写真コースなど大学の非常勤講師として写真教育に携わる。自身は、日常をモチーフに「時の有限性」「薄れゆく記憶」について考察する作品を制作。2022年1月、北海道東川町文化ギャラリー企画展、同年7月～9月、富士フィルムイメージングプラザ東京・大阪企画展など展示も多数。

Instagram: @allo_mayum

WEB: <https://www.allo-japan.com/>